

# Stage Up

2003年

4

月号

生涯学習情報誌  
ステージ・アップ  
通巻 No. 119



写真：「輝け生命」(クロウリハムシ) 撮影：川口 道明

- もくじ**
- 2 特集 インタビュー／山田太一さん
  - 4 生涯学習ア・ラ・カルト
  - 6 ぐるーぷBOX / いま地域で学校で
  - 7 まち・ひと・多面体 / 暮らし百景 俳壇
  - 8 イベントパーク

発行・(財)川崎市生涯学習振興事業団  
〈ホームページ〉 <http://www.kpal.or.jp>

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1  
TEL 044 (733) 5560(代) / FAX 044 (739) 0085  
TEL 044 (733) 5811 (ステージ・アップ直通) E-メール: [stage-up@kpal.or.jp](mailto:stage-up@kpal.or.jp)

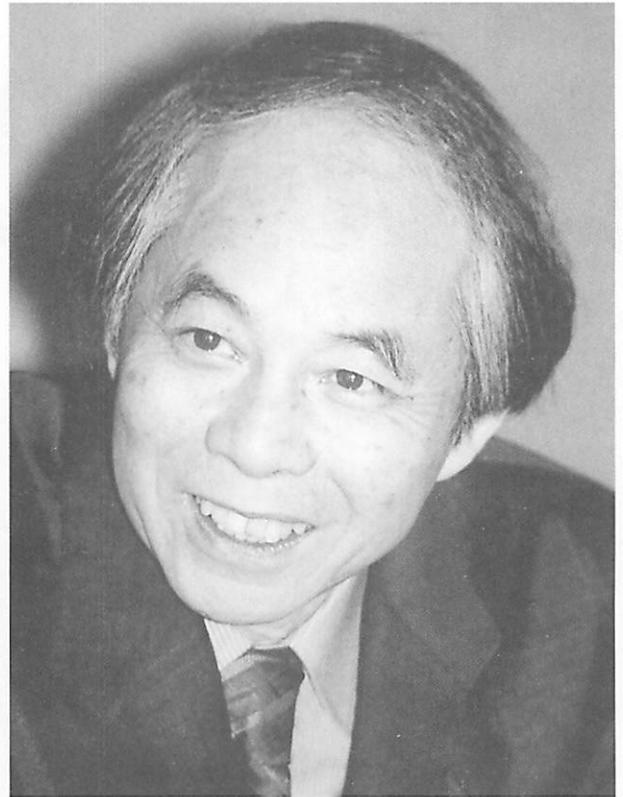
## 特集 インタビュー

### 脚本家・作家 山田太一さん

テレビが時代と社会を刻み、日本人の生活に溶け込んで50年。その中で人生の機微を映すドラマの存在価値は大きい。

山田太一さんは、現代の家族が直面する「世代間の断絶」「老人扶養」「中高年の性」などを題材に作品を描き、視聴者に共感と肯定をもたらし、それまでのドラマにはない新風を吹き込みました。「岸辺のアルバム」「早春スケッチブック」「夕暮れて」などのドラマに、自分の家族を重ね合わせたり、共感したり、主人公のようになりたいと願ったり…。

昨秋、かわさき市民アカデミーでは講座「テレビの名作・名番組を観直す～テレビの未来のために」を開設しました。その中で、脚本家・作家として幅広く創作活動している山田太一さんを講師に迎え「テレビドラマとは何か」について、語っていただきました。小誌のインタビューはその折に行ったもので、脚本家になるきっかけ、テレビドラマの可能性などについて伺いました。



## フィクションは真実つかむ装置 通念を揺さぶるドラマ書きたい

——山田さんは、テレビドラマの名作をたくさん世に送り出しておられますが、脚本家になるきっかけは？

山田 私は、教師になろうと思っていました。ところが、昭和33年は就職難で、先生の就職口はかなりの狭き門でした。「学校ばかりねらっていたのではダメだ」と就職課で言われ、松竹大船撮影所が演出部の助手を募集しているということでそこを受けて採用になりました。映画の世界へ入るのは思いもかけないことでした。ただ学生の頃からフィクションを書きたいと思っていたし、書いてもいました。フィクションとしてめざしていたのは小説でしたが、別の窓があったような感じがあって「あっ、映画だってフィクションだ」と思いました。20代を松竹大船撮影所の助監督として過ごしました。

松竹時代、私は木下恵介さんの組についていました。木下さんが松竹を辞めてプロダクションを作る話が持ち上がり「君も松竹を辞めて一緒にやろう」と誘われたのです。その主たる理由は、テレビは毎週脚本を書いて番組を流さなくてはならない。けれど、木下さんは手持ちの脚本家がさしあたっていなかったので、私ききにも「書け書け」と言ってくれたのです。30分のドラマをたくさん書かせていただきました。あのころは、テレビ局の同年代に「新しいものを創り出していこう」という気概があり、私もテレビにとっても可能性を感じました。そのうち木下プロダクションの仕事ではないものを手がけるようになり、なんとかフリーになりました。

——家族を描いた作品がたくさんありますが、これからの家族はどうなっていくのでしょうか。

山田 家族というのは個別なものです。しかし、家族論は共通性で論じられます。議論というものはそういうものでしょう。テレビドラマがこれからの家族はどうなっていくのかという論議をなぞることはないという気がします。共通性を軸に置かないで、なるべく個別な家族を書きたい。すると、案外そっちの方にさらに深い普遍性みたいなものがあるのではないかと思うのです。家族を必要、不必要で判断すると、子どもを育てる時に家族がいた方が便利だし、政治も家族という単位があった方がやりいい。そして、子が成長してきたら自立していく。そうすると親子の関係が薄くなっていく。経済的なつながりがなくなると、あとはセンチメンタリズムでつながっていくというのかな。そういう考え方がある。近代的な考え方として。でも、僕はそうじゃないんじゃないかと思う。短い目で見れば、確かに大学を出て就職をして、親からの援助を受けなくなると親子の関係はセンチメンタリズム以外にはもうない。若い時は僕もそう思いました。でも、長い目で見ると子どもも老いていく。そして死を迎えるときが来る。意外にタテのつながりというものが自分の支えになったりする。親子の関係もそうだけれど、配偶者との関係も中年期、老年期で重みがいろいろになります。機能、利害ではないものを含んでいる。いわくいいがたいものもある。ド

ラマはそういう機微をすくえるのではないかとっています。

——ドラマは時代を映す鏡とも言われていますね。

山田 テレビドラマは時代を映す鏡だというのは本当にそのとおりだと思いますけれども、それはおおむねマス・メディアの鏡なんです。実現する物語は通念に逆らわない、どちらかという最大公約数的なものなんです。テレビは、少数の人の現実を非常に描きにくい、すくにくいですね。例えばベストセラーになっている本は、一部のものは別ですが、はっきり言えばクズみたいな本が多いです。中にはきちんとしたものもあるけれど、まあ、ハウツーもの、スターのゴーストライターが書いたもの、一時の社会的気分に対応したものなど、数年たってみるとほとんど何も語っていないような本がありますね。人のことは言えないのですが、つまり、本にたとえて見ると、2000部しか売れない本に、むしろいい本がある。大多数に受けるものというのはイコール「いいもの」ではないのです。その課題がテレビでは非常にきつい。2000人相手のものは絶対に実現しない。いくら少なくとも百万人は相手にしないと。その部分を、これからのテレビに携わる人がどうかかわっていくか。その人たちの志の有無で、テレビの将来はものすごく変わっていくと思います。



アカデミーの講座で、テレビドラマについて語る山田さん

——テレビドラマが嫌になったことはございますか。

山田 もう、しょっちゅうです。私は数年前、テレビドラマの連続物は書かないと決めました。あまりに人気者の役者中心で視聴率中心なんです。いわば営業に奉仕するようなドラマを書くという

のは、若い時はいいですよ。そういう時期があるべきだし、そういう人がいるべきだとも思いますが、いい年をして「視聴率」で目の色を変えているのは情けないという思いがあります。私は小説も芝居も書きますので、そっちで仕事ができるので、それならテレビドラマも丁寧な仕事ができるものだけに限定しようと思いました。そうすると単発のドラマなんです。それでも共同作業ですから思うようにいかないことはもちろんある。若い人が抵抗するのはたいへんだけれど、僕の年齢になればあまりに意図に反すれば辞めるという選択もとれます。せめて老作家にそういう人間がいなかったなら、荒涼としてしまうような気がします。あまり大きな口はきけません、志としては、そういう役割を演じたいと願っています。

——どういうときに作品が生まれますか。

山田 普通に、通念でとらえていた現実が「えっ、ほんとはそうじゃなかったんだ」と目を開かれる時がありますね。そういうレンズが変わったような気持ちになって下さるよう

な作品が夢です。いい人と思われている人が、実はそうではないという側面がある。悪い人と思われている人が実は悪くなかったんだ、ということでもいい。そういうふうに、自分の現実感を揺さぶられた時、書いてみたいと思います。多くの方も僕と同じような通念を共有していて「そうなのか」と揺さぶられるのではないかとあてにしています。

——ドラマの役割は何でしょうか。またその可能性は？

山田 現実を忘れたいためにドラマを見るという役割を無視できません。くたびれて帰ってきて、テレビのスイッチを入れたら「こんなに現実悲惨だ」というのでは疲れが取れま



真剣な表情で山田さんの話を傾ける受講生

せん。仕事の苦勞を忘れるようなもの、勉強の苦勞を忘れるようなもの、夢のような世界、そういう役割がドラマにはあると思います。その一方で、ドキュメンタリーでは、どうしても現実に生きている人を傷つけるので踏みこめない垣根を乗り越えられるという利点もドラマにはあります。ある夫婦をドキュメンタリーで描くといっても、夜中までずっと撮っている訳にはいかないし「これを言ったらおしまいよ」みたいな事を言い合ったところは撮れない。社会的にその人がだめになってしまうようなことは撮れないでしょう。でも、フィクションだったら実在しない存在ですから、亭主を殺すシーンだって書けるわけです。ドキュメンタリーで限界がある部分も、フィクションを通すことによってどんどん踏みこんでいける。自分の話ではしゃべりにくいことでも「知り合いの話だけれど、こういうことがあった」というとしゃべりやすくなるでしょう。フィクションには、そういう真実をつかむ装置としての役割もあると思います。そのようにドラマでなければ描けないものがいろいろあると思うし、その可能性をさらに掘り起こすのもテレビライターの役割だと思います。

### 山田 太一さん (やまだ・たいち)

1934年、東京生まれ。脚本家。作家。早稲田大学教育学部卒業。松竹大船撮影所演出部に入社。木下恵介監督の下で助監督を務める。65年、脚本家として独立。以来、多くの作品を発表。代表作に「岸辺のアルバム」「男たちの旅路」「ふぞろいの林檎たち」「早春スケッチブック」「丘の上の向日葵」など。テレビ大賞優秀番組賞受賞、芸術選奨文部大臣賞、菊池寛賞、向田邦子賞、山本周五郎賞、毎日芸術賞など多数受賞。高津区在住。

●まなぶ●

パソコンセミナー 受講者募集

◆パソコン入門コース◆

対象：パソコン初心者の方  
パソコンの主な機能とインターネット、Eメールの基本操作を学びます。

◆初級ステップアップコース◆

対象：文字入力のできる方  
Windowsの基本操作、WORD（ワープロソフト）・EXCEL（表計算ソフト）の基礎、インターネット、Eメールの操作と利用方法を学びます。

◆WORD中級コース◆

対象：文字入力、WORDの基本操作のできる方  
文章や図表作成などWORDの機能を幅広く学習します。

◆EXCEL中級コース◆

対象：文字入力、EXCELの基本操作のできる方  
複雑な表やデータベース、グラフ作成などEXCEL活用テクニックを身につけます。

◆はじめてのホームページ作成講座◆

対象：ローマ字入力のできる方。  
ホームページの作成、HTMLの基礎から公開の手順までを行います。

★講座日程と会場

	開催日	時間	コース	講座No
5月	17・24(土)	①	初級ステップアップ	5-A
	19(月)・20(火)	①	パソコン入門	5-B
	23・30・6/6(金)	②	初級ステップアップ	5-C
6月	2・9・16(月)	②	初級ステップアップ	6-A
	18(水)・19(木)	①	WORD 中級	6-B
	21・28(土)	①	EXCEL中級	6-C
	24(火)・25(水)	①	初級ステップアップ	6-D
7月	3(木)・4(金)	①	ホームページ作成	7-A
	8(火)・9(水)	①	パソコン入門	7-B
	12・19(土)	①	WORD 中級	7-C
	16(水)・17(木)	①	初級ステップアップ	7-D

★時間…①9時半～16時半 ②10時～15時  
(各コースとも全12時間、昼休憩1時間あり)

★会場…川崎市生涯学習プラザ 3階 研修室

★受講料…12000円(テキスト代含)。定員は各15人。

★申し込み…はがき・Faxで。締め切りは各講座開講日の3週間前。第2希望までの講座No、〒、住所、氏名(ふりがな)、☎、Fax、年齢、受講目的を明記。

〒211-0064 中原区今井南町514-1生涯学習プラザ内  
学習推進室 パソコンセミナー係

問い合わせ 学習推進室 ☎044(733)5572/Fax(739)0085

生涯学習ア

●たのしむ●

大人のための健康・体力づくり

「第1回 川崎ゴルフ教室」のご案内

ゴルフの基本技術を、楽しみながら学び、健康と若さを保ちませんか。初心者の方、ゴルフの上達をめざしている方を対象にした教室です。

◆会場 川崎ゴルフ練習場  
幸区小向仲野町6-5 ☎044(522)6241

◆日時 4月25日～6月20日の毎週金曜  
10時～11時半まで 全8回

◆募集人数 15人(定員を超えた場合は抽選)

◆講師 川崎ゴルフ練習場所属プロ

◆受講料 17,000円(入場料・ボール・保険含む)

◆申し込み 往復はがきに、教室名・氏名・住所  
年齢・性別・電話番号を記し、下記あてに  
お送りください。

〒211-0064 中原区今井南町514-1

生涯学習プラザ内 学習推進室

◆締め切り 4月15日(火)まで。(消印有効)

問い合わせ 学習推進室 ☎044(733)5572

川崎市子どもの権利に関する条例—その21  
子どもの権利に関する全国の動き

川崎市子どもの権利に関する条例が施行されて丸2年がたちました。この間、様々な方の力により、川崎市の中で子どもを権利の主体とした考え方が浸透し始め、また子ども自身の主体的活動が活発化しています。

他の自治体でも“子どもの権利”に関する様々な取り組みが行われています。子どもの救済を目的としたオンブズパーソンを全国に先駆けて設置している兵庫県川西市。また、川崎市と同じように子どもの権利についての総合条例を持つ北海道奈井江町他、現在制定に向け取り組んでいる自治体も少なくありません。昨年には、このような子ども施策に関心のある65自治体や団体等が集まり、情報・意見交換を目的とした「地方自治体と子ども施策」自治体シンポジウム2002も行われました(今年は10月に川崎市で開催予定)。

子どもを保護する対象から、一人の人間として権利の全面的主体とするという「子どもの権利条約」(日本は1994年に批准しています)の子ども観に基づいて、おとなと子どもが社会のパートナーとなり、より良いまちづくりをすすめていく、そのような取り組みが全国でも広がってきています。

事務局 市民局人権・男女共同参画室 ☎044(200)2344

# ラ・カルト

## ハート & ハーモニー Vol.31

### 体操と健康づくり

「スポーツで健康づくり」とよく言われますが、スポーツには必ず、健康づくりに貢献できる要素と健康の足を引っ張る落とし穴とが含まれています。

「健康的」であるかどうかは、定義することは困難ですが、感じ取ることはできます。その感覚を磨くことは健康づくりの基本であると考えます。

競技スポーツの最高峰を掲げるオリンピックを見て、自分も何か健康のために運動をしようと思いつ人は多いでしょう。本来は防御の基本を身に付けないと危険なボクシングでも、ボクササイズとして運動不足とストレス解消に人気があります。マラソン競技はジョギングの延長ではないはずですが、健康づくりと言いながら、気分的には競技スポーツの真実事が求められているように感じられます。

同じ言葉を用いながら、競技と健康づくりが大きく異なっているものの代表は「体操」でしょう。オリンピック種目には器械体操、リズム（新）体操、トランポリン、がありますが、一般にはヨガや太極拳も体操です。アジア大会では武術太極拳、空手も行われ、組み手（格闘技）と形（体操）の二種類の競技があります。体操のイメージは、文字通り身体を操って運動することになっているようです。

競技団体である日本体操協会の中にも一般体操部門があり、体操指導者の資質向上と体操の普及を目的に活動しています。この中には幅広い健康志向の種目が含まれています。日本のラジオ体操やみんなの体操もそうですが、世界には先駆的なスウェーデン体操を始め、中国の益気功など最初から健康体力づくりを目的に開発されたプログラムはたくさんあります。柔軟体操（ストレッチ）はすべてのスポーツの基本にもなっています。

健康づくりに工夫を凝らしても、理想の身体を手に入れることはできません。他人が羨ましいと思うような人であっても、必ず自分のどこかに物足りない点を見つけるものです。自分の身体と上手に付き合っていくという事は、自分ならではの自分の身体の操り方を、試行錯誤しながら身に付けていくことです。そこには意外な可能性が隠れていることもあります。前向きな付き合い方が大切です。

健康体操には、競技人口に比べて多くの地域スポーツ指導者（日本体育協会）が活動をしています。様々な「体操」の技術の中から自分に合った「演技」を身に付けておくことは、生涯学習の必修科目ではないでしょうか。

（健康教育担当 スポーツドクター 野田晴彦）

### ●はぐくむ●

#### 平成15年度 夜間校庭開放が始まります

社会人・地域の方々のスポーツ（サッカー、ソフトボール、テニスなど）やレクリエーション活動の場として、夜間照明設備のある市内7校の校庭を開放しています。

#### 【利用できる団体】

市内在住・在勤の方で構成される成人団体(概ね10人以上)で、団体登録を済ませていること。登録は1団体につき1校で、重複登録はできません。

#### 【申し込み受け付け】

利用予定日の前月の第1土曜日に、下記の受付会場でを行います。ただし5月は第2土曜日になります。

学校名	時間	受付会場
臨港中学校	13時半	教育文化会館
塚越中学校	14時半	
久本小学校	13時半	生涯学習プラザ
東住吉小学校	14時半	
菅生中学校	13時半	宮前市民館菅生分館
南生田中学校	15時半	新百合21ビル地下2階 生涯学習振興事業団
麻生小学校		

#### 【開放期間・利用時間】

4月1日～12月20日までの月曜日～土曜日と祝日。  
18時～21時（塚越中は19時～、南生田中は18時半～）

#### 【費用】

夜間照明の電気代(30分で500円)は利用者負担です。

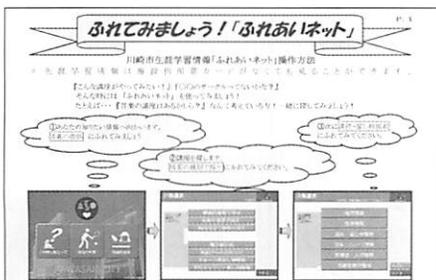
問い合わせ 学習推進室 ☎044(733)5572

### ●さがす●

#### ガイドパネルでらくらく情報検索

「ふれあいネット」には、皆さんの学習や生活に役立つ情報が多数入っています。その中から必要な情報を気軽に引き出せるよう、ガイドパネルを作成しました。パネルは、市内42カ所に設置されている利用者端末のそばに備えてあります。これを見ながら画面をタッチしていけば、情報が簡単に得られます。ぜひご活用ください。

問い合わせ 学習情報室 ☎044(233)6250



ズで3枚あります。A4サイズは1枚目です。☎は1

## ぐるーぷBOX

## 会員の多才な知識を共有し合う

## 「ばいでいあの会」

会員が交互に講師になったり受講者になりながら、主に文学・歴史などをテーマに10年間学び続けているのが「ばいでいあの会」(荻島敬蔵代表)です。会員は60代～70代の21人。小田急線鶴川駅前にある和光大学の「ばいでいあのホール」を拠点にしています。

「ばいでいあの会」とは、ギリシャ語で育成、共に学び創り出すという多義的なことばです。平成3年から3年間、川崎市が和光大学と共催した公開講座の運営委員長を務めた杉山康彦・和光大学学長が名づけたのにちなんで、この受講者有志が呼びかけ、「ばいでいあの会」が平成5年秋に発足。それ以来、例会の学びの記録や会員の研究、声などを会報にまとめて発行。今年の2月で第72号となり、読み応えのある内容になっています。

例会は毎月1回。日程など会員の都合を前回の例会で調整し、会員外にも開かれた運営を行っています。時には、野外で文学散歩も。講座を指導された杉山学長の著書『川崎の文学を歩く』を読み直し、杉山先生と一緒に文学に登場する川崎の地をほとんど訪ね歩きました。

「会員は多士済済。女性史や古典、短歌、漢詩・漢文に造詣の深い人、魚類の専門家、化学に強い人、理学博士、江戸川柳や古社寺の本を出された人、能面師など、講師には事欠きません」と、代表の荻島さんは語ります。

伺った日は、「漢詩と遊ぶ」という題で、会の発起人で会報の編集発行責任者の小坪孝好さんが例会の講師。資料を駆使しながら、漢詩の魅力に迫ります。飛び入り参加の方もいて、なごやかに学んでいるのが印象的でした。「会員の高齢化に伴い、お互いに健康に気遣い楽しく活動が続けていきたい」と、会員は話しています。

問い合わせは、☎044(833)6888の荻島さん。



## いま地域で学校で

## 子どもも大人も一緒に楽しむ

## 「わくわくワールド」 子母口小学校

高津区の子母口小学校(平野英雄校長、児童数1227人)では、地域の人たちとのふれあいを深め、多くの人に学校の様子を知ってもらう、「わくわくワールド」が数年前から行われ、毎年2000人ちかくの人の参加でにぎわっています。PTA主催のバザーと子どもまつりの2部形式でスタートしたこの催しも、年々内容と趣旨を変え、



今回は生活科と総合的な学習の時間の発表の場として行われました。

学年ごとにテーマを設け、学級単位でさまざまな取り組みをしています。2年は、生活科の「秋を楽しもう」で木の実などでおもちゃのゲームを作り、3年は、フィリッピン・韓国・アメリカの遊びを外国からの転入生に聞いたり、国際交流センターで調べたことを実演発表。4年は、ゲートボールを教えてもらった地域の老人会の人を招待してミニゲートボールを=写真。5年は自然教室での体験発表。6年は今までの学習で出会った人たちから学んだ生き方を自分たちなりに伝える工夫をしていました。

PTA各委員会は、しおり作りで子どもたちとのふれあいを深めました。また健康維持をねらった体力測定では、順番を待つ子どもたちと大勢の人で会場はいっぱいになっていました。

毎年、この催しで虫の写真の展示と説明をしている地域の写真家、川口道明さんは「子どもたちから元気をもらっています」と話しています。ちなみに川口さんには小誌の表紙を飾っていただいています。

平野校長は「これからも、ますます地域に開かれた学校となるよう、住民の方々と一体となった『わくわくワールド』にしていきたい」と語っていました。

## まち・ひと・多面体

活動を支える「市民文化パートナーシップかわさき」

### 「文化ボランティア講座」でコンサート開催

3年前に発足した民間団体「市民文化パートナーシップかわさき」では、「ささえる・たたえる・つなぐ・そだてる」をモットーに、個性豊かな市民文化の創造をめざして、助成や交流、講座開催などさまざまな事業を行っています。諸事業の運営は会員からの会費、寄付金などでまかなわれています。

事業の一つである「文化ボランティア講座」の受講生がコンサートを開催すると聞いて、会場の靴ホールを訪ねました。コンサートは、20代～80代の受講生9人による企画で、10回の講座の中で、この日のために出演交渉・広報・チケット販売などのノウハウを学びました。

愛をテーマにした今回のコンサートでは、NHK交響楽団のバイオリニストの公門俊之さんとピアノ・声楽の若手音楽家が、「愛の喜び」「愛の夢」「宵待草」など15曲を演奏。客席を埋めた150人の聴衆は、軽妙なトークに笑いさざめき、「チャルダッシュ」の超技巧の演奏に息のみ、出演者に盛んな拍手をおくっていました。

スタッフとして受付案内や照明、アナウンスの裏方を



担当した受講生たちは、好評だったコンサートに安堵の表情。「お客様から『楽しかった。ありがとう』と声をかけられたことが何より」「しろうとの共同作業だったが、これだけのことが出来てうれしい」と話していました。

講座を主催した「市民文化パートナーシップかわさき」の事務局長の小倉敬子さんは「これからも、市民が力を発揮できるような、さまざまな講座の企画と情報提供をしていきたい」と抱負を語っていました。

「市民文化パートナーシップかわさき」の連絡先は ☎044(221)8107 (9～16時、日・祝休み)。

ホームページ<http://www.kawasaki-net.ne.jp/partner/>

くらし百景

### 元住吉句会

俳壇

「と声は雲の中より百千鳥

球根植うパイオの新種楽しみに

新緑や水吸い上げるぶなの幹

髪切つて靴音軽き春の服

生まれては消ゆる渦巻小春風

街道に金魚掬ひの幟旗

松の芯斜陽に光り雨上がる

故郷や谷戸に抱かれて梅真白

紫外線注意報出て夏兆す

朝顔の行きどころなき蔓伸ばす

宅急便はじける様な栗届く

門柱に付きし空蟬そのままに

葛の芯浮世の悪の蔓伸ばす

西日射すドアの狂ひて軋みけり

風呂吹きや手捻りの猪口出してみる

高橋 悦男

荒 久子

木嶋とみえ

井上 京子

小林 政枝

小山由美子

佐藤 雅雄

波多野ハナ子

森田 廣枝

池田 宣子

米山よし江

小堀 作蔵

平田マサ子

赤川 桂子

山田 光恵

※元住吉句会は「海」という結社に所属致しています。現在は、「海」の主宰高橋悦男先生に月一回、第三木曜日に中原区の国際交流センターで御指導を受けております。俳句の好きな人達の集まりで、やがては一人ひとりの歩みの証として記念合同出版を致したいと燃えているところです。楽しい句会ですので御一緒に俳句を致しませんか。お待ちしております。代表 荒 久子 ☎(四二)二六五〇

## 情報コーナー イベントパーク 講座・コンサート他

## ●「月岡芳年」展

4月7日(月)～26日(土)まで、砂子の里資料館。江戸末期から明治にかけて活躍した最後の浮世絵師月岡芳年の「月百姿」50点を展示。無料。10時開館。日・祝休館。☎(222)0310。

## ●ミニ画廊スナック琴①写真展②水彩画展

①は4月12日(土)まで。田村眞一グループの夜景・風景作品。②は4月12日(土)～26日(土)。峰水彩画教室の風景作品。展示無料。☎(544)0507。

## ●「まさよしスケッチ」展

5月31日(土)まで、中村正義の美術館。正義がスケッチした場所を地図で追う。所蔵スケッチ作品とスケッチ中の写真などをあわせて展示。一般500円、小中生200円。11時開館。開館日は金～日曜と祝日。☎(953)4936。

## ●ランチタイムコンサート～ジャズコンサート

4月16日(水)12時15分開演、市役所第3庁舎ロビー。出演は伊藤和馬(フルート)、阿部紀彦(ピアノ)。曲目は「サテン・ドール」「イパネマの娘」「A列車で行こう」ほか。無料。☎(222)8821の文化財団。

## ●「新百合子どもミュージカル」第2回公演

4月26日(土)18時開演▽27日(日)14時開演。麻生文化センター大ホール。青砥洋の原作・演出によるミュージカル「魔女バンバ」。21人の小中学生が出演。入場料700円。チケット☎(966)0663の黒河内さん。

## ●琴古流尺八演奏会

5月11日(日)13時半開演。川崎能楽堂。竹朋会会員他の演奏。「夕顔」「春の夜」他。劇団民藝の今野鶏三さんが語りて特別出演。無料。事前予約。☎(511)8988の青木さん。

## ●講座①POP広告②宅地建物取引主任者資格受験準備

①は5月12日～6月26日の月・木曜18時15分、全14回。場所は労働会館。費用は15000円。②は5月27日～10月3日の火・金曜13時半、全30回。同所。33000円。定員は①25人②35人、先着順。☎①4月20日(日)②4月27日(日)9時から電話で。☎(222)4416。

## ●市民プラザ「女性硬式テニス教室」

5月12日～7月14日の月曜、全10回。プラザ体育館。受講料12000円。▽初級10時～12時、定員30人▽中級13時～15時、定員20人。☎4月19日(土)までに往復はがきに住所、氏名、年齢、☎、希望コースを記し、〒213-0014高津区新作1-19-1「市民プラザテニス教室」係まで。☎(888)3131。

## ●家族で楽しむ黒川のアウトドア!①森コース②畑コース

①は4月26日～来年3月の土曜10時～14時、全6回。枝打ちや竹の伐採、木登りや落ち葉遊びなど。②は4月27日～12月の日曜10時～14時、全6回。夏野菜や「万福寺人参」の栽培。コンニャクや漬物作りも体験。場所は黒川青少年野外活動センターと周辺。小中学生とその家族、各30組(抽選)。費用は1家族5000円。☎4月15日(火)までに往復はがきにコース、住所、☎、参加者全員の氏名、性別、学年、年齢を記し〒215-0035麻生区黒川313-9の同所。☎(986)2511。

## ●青少年創作センター「初夏の創作教室」

## ①料理②パソコン③陶芸④パッチワーク

①②は5月11日～6月1日の日曜、全4回。小中学生対象。①は9時半～12時半。教材費2000円、定員30人。②は13時半～15時半。無料、定員15人。③④は成人対象。③は5月15日～6月26日の隔週木曜9時半から、全4回。費用は4000円。定員24人。④は5月15日～6月5日の毎木曜13時半から、全4回。費用は3800円。定員30人。☎4月13日(日)までに、往復はがきに教室名、氏名、学校・学年、性別、住所、☎を記し、〒214-0034多摩区三田2-3303-1の同センター「初夏の創作教室」係あて。☎(911)1510。

## ●清泉ラファエラ・アカデミア

4月14日開講の▽英会話(小・中学生クラスも新設)▽スペイン語▽中国語▽テニス・体操など36講座の受講生を募集。場所は清泉女子大学宮前平キャンパス。1期12回、27600円～32400円。☎(3447)5551、同大生涯学習センター。

## ●和光大学市民講座「オープン・カレッジばいであ2003」

5月開講の「アジアの諸言語」「芸術文化を学ぶ」「歴史・社会・人間」など60講座の受講生を募集。受講料は7500～30000円。申し込み締め切りは4月14日(月)。詳細は☎044(988)1433の同大大学開放係。

## 表紙写真 撮影者からひとこと

ハボタンにハムシが一匹  
「人びとに害虫と言われようとも 身体が小さくとも  
宇宙船地球号の同じ生きものではないか  
太陽の下 上を向いて歩こうぜ」

自然の中で懸命に生きる虫たちに  
声援を贈りたい - 多摩川河川敷にて -  
皆様 一年間Stage Upの表紙の虫たちに  
声援を贈って頂きありがとうございました  
日本写真作家協会会員 川口 道明

## (財)川崎市生涯学習振興事業団 組織変更のお知らせ

(財)川崎市生涯学習振興事業団では、平成15年4月1日より以下の通り組織変更を行います。

- これまでの「学習事業室」は「アカデミー室」に変わります。電話番号は変わりません。☎044(733)6626
- これまでの「スポーツ事業室」と「青少年活動事業室」を統合し「学習推進室」とします。☎044(733)5572
- 「学習情報室」☎044(233)6250と「新百合分室」☎044(952)5000については変更ありません。

※詳しくは当事業団総務室までお問い合わせください。☎044(733)5560